

棚田に吹く風



3 2012
月号
Vol.81
隔月刊

2 特集

NPO法人になった 棚田保存会

5 フォトエッセイ
棚田のすがた

6 棚田・里山からのたより
新田開発をした先人の思いと
努力を胸に次世代に繋げたい
有田川町のシンボル、
心の原風景「あらぎ島」
和歌山県有田川町あらぎ島

8 棚ガール
田んぼの生き物たち

9 棚田博士は今日も行く
オリーブの島にある棚田
香川県土庄町豊島唐櫃

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report



NPO法人になった

棚田保存会

棚田は農地であり私有財産なので、維持保全の責任は第一義的には、所有者である農家が負っています。

しかし、減反政策、過疎化・高齢化などにより耕作放棄される棚田が増え、一方で、森林と同じように棚田にも公益的な価値があることが理解されるようになりました。その結果、維持保全を農家だけが担うのではなく、周辺地域や都市住民を含めた社会全体で守っていくという「棚田保全の社会的な機運」が生まれました。

棚田の保全を掲げるグループは、現在200団体近くあるといわれます。多くは棚田のある集落の、農家を中心とする任意団体です。そして幾つかの団体が、NPO法人となる道に進みました。

これらの団体は、なぜNPO法人になると思うたのでしょうか。法人になると、どんな違いが出てくるのでしょうか。



NPO 法人せんがまち棚田倶楽部結成!

千葉県鴨川市

NPO法人 大山千枚田保存会

〔前身：大山千枚田保存会〕



出来たばかりの大山千枚田周辺の川と森の生き物図鑑

保存会の中で最も早くNPO法人になっ

た、いわば「トップランナー」。法人化の理由として「社会的信用が得られる」「行政からの助成や事業が受けやすい」などを挙げている。法人化により、2001年春に竣工した拠点施設「棚田倶楽部」の指定管理者にもなった。

行政の事業は3年程度で終わるものが多いので、当初から「いかに自主事業を育てて自力で運営できるようにするか」を考えた。「平日の夜や週末だけでは活動は回らない。専任の職員を雇用するまでの間は、増えた作業量をこなせるボランティアの確保が必要」とも言う。アイデアをもとに多様な事業を展開し、予算規模は4000万円を超えるようになった。

今後は、地域に残っている森林資源によるバイオマスエネルギーの活用と森林の再生、全国の棚田保存会と協働で棚田の生き物図鑑を作成し、棚田の生物多様性を保全していく、などの活動に取り組みしたいという。

前身団体の発足	当時の保存会の構成	それまでの活動	法人化年月	理事長	理事の人数	会員数	予算規模
1997年10月	<ul style="list-style-type: none"> ●発足時 地権者1.5割 周辺農家8.5割 ●法人化直前 地権者0.5割 周辺農家2.5割 都市住民7割 	オーナー制度 交流イベント 体験希望の受け入れ 復田・耕作維持	2003年10月	石田三示	15人	約320人	約4000万円

静岡県菊川市

NPO法人 せんがまち棚田倶楽部

〔前身：上倉沢棚田保全推進委員会〕

法人化後は「高校生や大学生等の体験、研究機関の参加が増加した」「企業の援助（賛助会員、一社一村運動）が増えた」等のプラスの効果の一方で、取材やアンケートなど、以前に比べて事務的負担が増加したという。今後の目標として「オーナー制度の充実と棚田市場の開設」「棚田を利用した地場産品の開発」「耕作放棄地の再利用（農村公園、自然公園等）」などを挙げる。ほかに、棚田フォトコンテストの開催や棚田コンサート等の実施など。やりたいことはたくさんあるものの、企画や準備のための人材と時間が足りないのが悩みだという。



せんがまち棚田倶楽部のホームページ

「地元住民の棚田に対する意識の向上、外部へのPRと社会的信用度の向上」を目指し法人化。

前身団体の発足	当時の保存会の構成	それまでの活動	法人化年月	理事長	理事の人数	会員数	予算規模
1999年4月	地権者6割 集落の人4割	交流イベント 体験希望の受け入れ 棚田米の販売 復田・耕作維持 田んぼの学校	2010年2月	山本 哲	7人	15人	約520万円



オーナー田植え

岐阜県恵那市

NPO法人 恵那市坂折棚田保存会

〔前身：坂折棚田保存会〕

「まちづくりの景観資源として棚田を活用するため、保全活動を明確にし、さらに地域社会の信頼を高める」ことを目指し法人化。その結果、「保全に関する行動が計画的に実施できるようになった」「行政機関からの助成が受けやすくなった」「NPO関連の情報が多く入るようになった」、一方で「事務量が増加し対応が困難になった」「事務機器の整備が必要になった」等がある。課題は「専任の事務担当者の確保。活動経費の安定的な確保」「保全に関する行動に参加できる人の確保」とのこと。

今後は、オーナー制度による棚田保全を増加させ、より安定した景観保全を目指す。また、棚田と里山は一体的なもので、棚田保全と里山（主として美しい景観）保全は同時に進めるべきだと考えている。景観の改善に向けて、周囲の樹木を常緑樹から落葉樹にしたいという希望もある。

前身団体の発足	当時の保存会の構成	それまでの活動	法人化年月	理事長	理事の人数	会員数	予算規模
2001年	地権者1割 集落の人2割 周辺農家4割 都市住民3割	オーナー制度 交流イベント 体験希望の受け入れ 棚田米販売 復田・耕作維持	2008年11月	田口 譲	15人	約120人	約900万円



案山子コンテストの応募作品の写真がずらりと並ぶ掲示板

奈良県明日香村 NPO法人 明日香の未来を創る会

〔前身：稲刈棚田ルネッサンス実行委員会〕

任意団体として発足以来15年が経過し、指導者の高齢化や後継者不足から一集落のオーナー制度の取り組みとしては存続が危ぶまれる状況となった。そのため、集落以外からも指導者（会員）を募り、より組織の強化を図るために改組。

法人化で公的助成を受けられるようになった反面、事業完了までの繋ぎ資金の確保が必要になる、税理士報酬等の想定以上の費用がかさむ、などの現象も生じた。また助成は使途に制約があることから、本来の活動（オーナー制）との整合性に苦慮する面もあった。

当面の課題は、自由に使える活動資金を捻出する方を確立すること。「棚田オーナー以外、例えば全国の明日香ファンに賛助会員として入会を募り（古都明日香保存財団との連携を検討中）、一人でも多くの方の賛意を得られる努力を続けるべきと思う。認定NPOを指すことも視野に入れた活動内容を確認していきたい。」

前身団体の発足	当時の保存会の構成	それまでの活動	法人化年月	理事長	理事の人数	会員数	予算規模
1996年4月	集落2割 都市住民8割	オーナー制度 交流イベント 復田・耕作維持 自然観察会	2010年11月	寺西 章	12人	約180人	約600万円

佐賀県唐津市 NPO法人 蕨野の棚田を守ろう会

〔前身：蕨野棚田保存会〕

蕨野の棚田が2008年夏に「重要な文化的景観」に選ばれたのを機に、棚田米の生産・販売に専念する《蕨野棚田保存会》と、交流等を受け持ち集落外の助けも借りながら棚田を保全していく《守ろう会》という役割分担が生まれた。NPO法人になったことで、行政などからの補助も受けやすくなった。

オーナー制度は実施していないが、佐賀大学の実習田があったり、体験の受け入れ、菜の花の種まきとウォーキング、棚田コンサートなどのイベントを実施。ウォーキング用の遊歩マップを作っている。今後の課題は「専従の事務局や事務所を持つこと」。また、棚田保全に都市住民、佐賀大学の手助けと、新たに障害者の授産所の手助けを受けることを計画している。



ウォーキングの心強い味方、遊歩マップ

前身団体の発足	当時の保存会の構成	それまでの活動	法人化年月	理事長	理事の人数	会員数	予算規模
2001年	地権者3.5割 集落の人0.5割 都市住民6割	交流イベント 体験希望の受け入れ 復田・耕作維持 里山保全	2010年3月	中山 茂廣	13人	約130人	約300万円



冬眠する棚田

世界の人口は69億人、毎年1億人増えつづけているそうです。食糧は人口増加に追いつくのでしょうか。現在、世界で腹いっぱい食べているのは約8億人で、充分食べられず栄養失調は10億人にも達するといえます。

生産調整をつづける我が国の食糧自給率が40%といいますが、カネさえあれば食糧はいつでも買えるのでしょうか。

ある年、日本は300万トンの米を輸入しましたが、そのため東南アジアの米価は2倍に値上がりしたといえます。食べられなくなった貧しい人々から見れば成金風は迷惑でしょう。したがって食糧だけは、生産能力をフルに発揮し、輸入に頼らない対策が必要ではないでしょうか。

写真は新潟県長岡市木沢の棚田です。棚田は深い雪に覆われ冬眠しているようでした。雪解けとともに田植えが始まるこのことです。



Profile

永田 博義 ながた ひろよし

1938年、長崎県佐世保市生まれ。東京電機大学大学院修了。1956年、アルバイト先でDPEに興味を持つ。1976年、写真家・前田真三氏に邂逅し指導を受ける。1980年、東京都職員写真展特賞受賞。2003年、ポストカード「遺産 日本の棚田I・II」出版。2004年、写真雑誌「日本フォトコンテスト」において「遺産 日本の棚田」を1年間連載。現在、全国の棚田をはじめ農村風景を撮影している。千葉県在住。棚田学会会員。

- 個 展 2009年「日本の棚田」 富士フィルムフォトサロン東京、同・大阪
- 写真集 「本土寺の四季」(1984) 「偕楽園逍遙」(1997)



棚田のすがた

写真と文
永田 博義

棚田・里山
からの
たより



新田開発をした先人の思いと努力を胸に次世代に繋げたい 有田川町のシンボル、心の原風景「あらぎ島」 和歌山県有田川町あらぎ島



左上：キャンドルライトイルミネーション in あらぎ島。秋篠宮家悠仁様の誕生日のお祝いイベント
左下：雪のあらぎ島／右：緑がまぶしい初夏のあらぎ島全景

紀州（和歌山県）有田川町の東、清水にあらぎ島があります。霊峰・高野山を源流とした有田川の流れによって造られた扇形、又、はまぐりにも似た形をした、54枚からなる2・3ヘクタールの棚田です。

江戸時代、大庄屋である笠松左太夫が私財を投じて起こした事業のひとつにより新田開発され、三百年以上にわたり「田んぼ」として作られたあらぎ島は、現在六軒の農家が守っています。

自然に左右される農業の厳しさの中で、田んぼがあるから、生活の為に作っていかにかやと先祖から受け継いできた「米を作る」という当たり前のことが、高齢化という時代の流れに直面しました。田植え、真夏の草刈り、水普請、稲刈り等、オーナー制も必要かとギリギリの選択を迫られる中で平成8年「あらぎ島景観保全保存会」を発足させました。同年、美しい

むら景観コンテストで農林水産大臣賞を受賞、平成11年には「日本の棚田百選」に選ばれ、生活資源「田んぼ」に観光資源が加わり「棚田」として脚光をあびるようになりました。

まちの観光事業の一環として、田植え稲刈りなどの体験型イベント、「棚田ウォーク」「キャンドルライトイルミネーション in あらぎ島」などの観光型イベント、また保育園児と地元若者との稲作を通じてのふれあいが、あらぎ島を舞台に開催されるようになりました。年間延べ1100人以上が田んぼの土を踏んでくれます。体験参加の子供はお米を作る大切さを学び、大人は地形、歴史の事や水源涵養機能についても学んでくれると思います。

特に私たちの心を動かすのは地元、八幡小学校の稲つくりです。初時きから田植え、稲刈り、精米ま





八幡小学校の3・4年生15人。ビッグ案山子もサミットを待つ

■あらぎ島の棚田へのアクセス

【公共交通】 JR紀勢本線藤並駅下車、有田鉄道バス花園線三田停留所下車、徒歩1分

【自動車】 阪和自動車道有田ICを降りて国道480号を東へ50分

■お問い合わせ

和歌山県有田川町役場
産業振興部清水行政局産業振興室
Tel.0737-52-2111 (代) FAX.0737-25-9005
E-mail:s.sangyoshinko@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページURL
<http://www.town.aridagawa.lg.jp/>



ですべて授業の中に採り入れ、農業の厳しさや収穫の喜びを学びます。この授業に私たちがお手伝い、協力できる事は将来の後継者を育てる原点と考えています。

あらぎ島は春夏秋冬、毎日違う顔で私たちを歓迎してくれます。シーズンになると毎日大勢の棚田ファンがカメラを持って訪れます。私自身もあらぎ島を撮り続けて三十年。あらぎ島は生きています。

全国的な例に洩れず、野生動物との共存、23年に発生した自然災

害からの復旧作業、担い手（後継者）問題が今後の私たちの課題です。

来る平成25年11月には第19回国棚田（千枚田）サミットが有田川町で開催されます。「農村の歴史的文化遺産の棚田について考え、その機能をいつまでも存続させていきたい」、保存会メンバーは地域と行政と共にサミットを成功させ、世代を超えて継承していけるよう頑張っていこうと考えています。

それが地域活性に繋がりに、また地元を離れた者が「あらぎ島」をメデイ

アで目にする度に、ふるさとを誇りに想ってほしいと。また、あらぎ島を訪れてくれた人達には農業の厳しさやよるこび、自然のすばらしさを耕作をつうじて実感してもらい、将来に受け継いで行けるよう【棚田あらぎ島】が日本人の心の原風景になるよう私たちはがんばりたいと思います。

あらぎ島景観保全保存会 会長
西林輝昌



左：棚田を支える人たち。右端が西林さん／中：菅笠、緋の衣装、緋色の禪の早乙女隊
右：田植え体験。全体が見渡せませ

棚 ガール Tana Girl

Vol.4

棚田の虜になった乙女、通称「棚ガール」

そんな女性を紹介するコーナーです!!

新潟県十日町市池谷 坂下 可奈子 (24歳)

こんにちは、坂下可奈子です。昨年2月に香川県から新潟県十日町市の山間の集落、池谷に移住して農業に励んでいます。池谷は現在17人8世帯のむらで、半分以上が70歳以上の専業農家さんです。東京の大学に通っているときに、農作業ボランティアで池谷と出会い、むらの人たちと話すうちに、その生き方や自身の哲学、農業への思いに触れました。強く、清く、カッコイイ生き方をする村のおじいちゃんおばあちゃんたちに恋をしました。そして、ずっと守られてきた農地も自然も、知恵も生き方も守り繋いでいきたいと思いました。どんな世になろうとも、なくしてはいけないものだと思ったからです。

現在は休校になった池谷分校に住んでいますが、ここは冬に人が住む想定をしていない造りなので、すごく大変です。分校までの坂道も除雪車が入らないので、大雪が降れば股まで雪が積もります。農業と、豪雪生



池谷集落の師匠 曾根藤一郎さんと笑顔の1枚

活含め大変だろうと言われますが、日々の小さな発見や喜びがあればその大変さに勝ります。理屈やお金でなく、思いや大切なもののために生きる。私自身、新しい生き方の挑戦をしているような気がします。今年からは師匠の家に居候して徹底的に農業を学びます。今からとても楽しみです。

*坂下さんの池谷集落での日々の暮らしを綴ったブログ
「きぼうしゅうらく」
<http://ameblo.jp/kibousyuraku/>

田んぼの 生き物たち

第30回 ジャノヒゲ



辰年の平成24年、十二支のうち唯一実在しない竜ですが、その名にちなんだ動植物は結構たくさんあります。ユリ科のリユウゼツランに、果物のドラゴンフルーツ、タツノオトシゴの仲間、深海魚のドラゴンフィッシュなど、名前を並べるだけでも、この原稿の文字が埋まってしまうくらいです。



撮影：桐原真希

今回ご紹介するジャノヒゲも、実は「竜」がらみ。別名をリュウノヒゲと言います。寒い季節の里山の林床などで、鮮やかな美しい青い色の実を付けます。大きさは約直径7ミリ。正しくは実ではなく、種子の部分が目立っているのですが、その中身は、殆どが乳白色の硬い胚乳で、食べられる部分は青い皮だけ。一体、この食べがいのない青い実をどんな生き物が食べるのか、いつかその食べられる現場を見たいものです。

この青い実、ぎゅっとつまんでみると勢いよく白い弾が発射されます。その弾力は、硬いアスファルトの上だと、まるでピンポン玉のように跳ね上がり、植物らしくない質感です。

またジャノヒゲの根は漢方にも利用され、咳やたんに効く麦門冬(ばくもんどう)と呼ばれています。目で薬しめ薬にもなる、そんな冬の青い寶石、棚田のある集落にはきつとどこかに光っているはず。

(自然観察指導員 桐原真希)

※「田んぼの生き物たち」は今回が最終回です。長い間の連載ありがとうございました。



棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の 全国棚田行脚

オリーブの島にある棚田

香川県土庄町 豊島唐櫃

香川県土庄町は小豆島の玄関口、その西にある豊島も町域にしている。豊島は小豆島の6分の1の面積であるが、同じ様にオリーブの栽培が盛んな島である。小豆島の小豆島町、旧池田町の中山千枚田は島の棚田とは思えないほどの優れた景観で百選にも選ばれているが、豊島の棚田についてはこれまでほとんど情報がなかった。それが2010年7月に小豆島・豊島・直島など、瀬戸内の7つの島を舞台にして開催された瀬戸内国際芸術祭にあわせて、唐櫃の棚田が一部復田されたことで知られるようになった。

瀬戸内の海に向かって ひろがる棚田とアート

2010年9月中旬、残暑が厳しい日に唐櫃を訪ねた。豊島へは幾つかのコースがあるが、私は高知県橋原町からの帰路に立ち寄ったため、高松から小豆島に渡り、豊島の唐櫃に寄港する小豆島と宇野を結ぶ船便を利用することにした。高松栈橋を7時40分に出発した急行フェリーは満席に近い通勤客を乗せ、30分で小豆島の土庄港に着いた。

土庄から宇野を結ぶフェリーは1日7便、そのうちの4便が唐櫃に寄港する。土庄発8時40分のフェリーに乗り、目の前に横たわる豊島に向かうと、みるみる島は大きくなり、北向きの斜面に拓かれた棚田が船上からも見えるようになる。9時10分、夏の強い日差しにさらされた唐櫃港



なかしま みなひろ
中島 峰広 (棚田博士)
早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

に到着した。港には、町役場から知らせをうけた唐櫃棚田保存会の会長、曾我清治さんが待っていた。島の北側、本土に面している唐櫃は戸数160戸ほどの集落。その半分ずつが海岸の唐櫃浜と標高100〜150mの斜面に位置する唐櫃岡にわかれており、その間に棚田が分布している。さっそく、曾我さんが運転する軽トラの助手席に乗り棚田へ向かう。港から岡集落が始まる100mの高さまで一気に坂を上ると視界がひらけ、瀬戸内の海に向かってひろがる寒田地区の棚田が姿をみせる。船から見た棚田だ。

寒田地区には傾斜6分の1の斜面に10畝、280枚ほどの棚田がある。そのうち、復田された1畝を含めておよそ3分の1の3畝が耕作されている。放棄された部分も藪払いや草刈りが行われ、棚田の形状が保たれ復田するのも容易な状態。1枚の広さは1〜5^坪、2〜3^坪のものが多い。法面は下の3分の1が石積み、3分の2が土坡、高さは1〜2^{メートル}ほど。石積みは、豊島でゴウラ石とよばれる鉄平石が用いられ、なまめに丁寧に積まれている。

復田は、2009年2月に結成された唐櫃水利組合員の有志13名がつくる唐櫃棚田保存会によるもの。福武財団からの助成金を受けて2009年7月から2010年3月にかけて寒田地区の西部で実施された。保存会のメンバーは岡が12名、浜が1名の構成で、会長の曽我さんをのぞけば役場や町内の土建業などに勤める兼業農家。樹木を伐採し、藪を払って焼き、草刈り、田の補修を行い、面積1畝、35枚前後の棚田がよみがえった。その管理は、保存会の会員のほか福武財団が雇用する2名の職員と緊急



上：明神池と棚田の風景
中：棚田のそばに設けられたアート作品「豊島の気配」もと小豆島とオリブの島と知られる



雇用対策事業で町が雇用する2名の職員が当たっている。このほか、寒田地区の東部では放棄された棚田を利用して世界的な建築家として知られる西沢立衛さんが設計した豊島美術館とよばれるドーム状のアートが完成に近く、その周辺の棚田4〜5枚があわせて復田されていた。

用水源は唐櫃水利組合が管理する明神池、3年前に5000万円をかけて改修。その10%を15戸の受益者が負担、復田を後押しすることになった。池には、島内15〜16か所にあるアートの一つ、「豊島の気配」と名付けられた作品が展示されていた。池のなかに水鳥が群れ、風が吹くと羽を動かしているように見える。かつて島の棚田がすべて耕作されていた

時代、当番の水番が灌漑水を差配、池の最後の水は入札により利用が決められていたという。今でも水の有無には敏感で、水の心配がない池掛かりは収穫が遅いヒノヒカリ、水に不安のある沢水掛かりは収穫が早いコシヒカリが栽培されているそうだ。

よみがえらせた棚田を守る

曽我さんは63歳、今は60歳の奥さんと二人で暮らしている。高校卒業後、大阪府岸和田市の石屋に就職。石工としての技術を身につけ、33歳になった1980年に島に帰ってきた。島は加工が容易な角礫凝灰岩の産地で石屋が多い。帰郷後、すぐに島内の石材会社に入り、農繁期には機械を使う農作業を手伝った。両親がなくなつて

からは60歳の定年まで会社勤めを続ける兼業農家だった。

定年後は農業に専念、現在自家の50^坪、20枚と従兄の30^坪、11枚の棚田を耕作している。しかし、奥さんが島内に広大なオリブ園を所有する東洋オリブに勤めているので、世帯としては兼業農家である。使用する機械類は、乗用トラクター（15馬力）、歩行型2条植え田植機、乗用型2条刈コンバイン、耕耘機、バインダー、乾燥機と種類が多く、すべて中古を購入したという。唐櫃水利組合の組合長を10年、その関係から唐櫃棚田保存会の会長になり、中山間地域等直接支払の代表も務める集落のキーマン的存在である。

かつての農協出張所に唐櫃棚田保存会の事務所があり、町の活性化事業促進のために立ち上げられた豊島食プロジェクト推進協議会の事務所も同居している。協議会は町長が会長、町の農林水産課の職員、豊島観光協会会長、島内の3自治会会長、唐櫃棚田保存会会長などをメンバーにしている。事務所ですぐに休んでいると、おばあさん



集落の東には唐櫃浜の1号池のほか小さな溜池がいくつか並んでいる。標高150[㍎]付近に湧水帯があるらしい。そのなかの一つ、神社横にある明神池の水源、さぬきの名水にもえらばれている「唐櫃の清水」を見ることができた。石造りのタンクに水温摂氏15度の湧水が吹き出し、吐出し口からの水はかつて飲料水として利用された。その余水は下に設けられた石造の3つの水槽に導かれる。すなわち、直下中央の少し高いところにスイカなど食物を冷やす枡があり、そこから溢れた水が左右の野菜などの洗い場と洗濯物の濯ぎ場に分離する仕組みになっている。さらにその下には障子など大物の洗い場と衣類の洗濯場があり、洗濯場の下手がオムツの洗い場だったという。ここは、1960年代に水道がひかれるまで、集落中の女たちが集まり、一日中井戸端会議で賑わったところ。また、水を汲みに来る子供たちに集落の一員としての自覚をもたせる躰の場でもあった。



「島きっちん」は寄棟、瓦葺きの平屋を利用して、客席を縁側まで張り出させた開放的なレストラン。洒落た雰囲気好まれるのか、9月中旬の平日というのにほぼ満席の状態。「島きっちん」セットを注文、焼き魚・野菜サラダ・酢の物・汁だけのシンプルな内容だが、食材の新鮮さが感じられる料理であった。

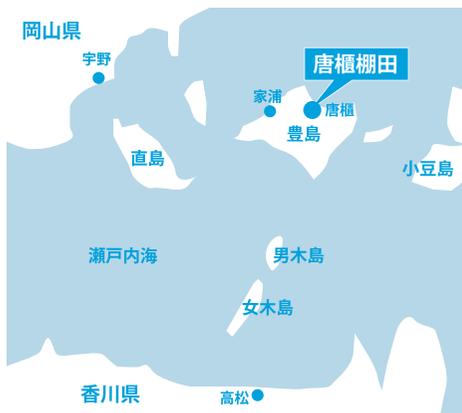
が野菜を持つてきた。野菜は推進協議会の事務所が仲介し、島内のレストラン「島きっちん」(上写真)に届けられるそうだ。レストランは古民家を改造したアート作品の一つ。芸術祭の開催期間中、東京丸ノ内ホテルのシェフが出張し腕をふるっているという。

食後、島の南側を案内してもらった。まず東へ向くと小豆島との間にある小島、肉牛の飼育が行われている小豊島が見えてくる。地図をみると小さな集落が点在、放牧でもして牛を飼っているのだろう

か。これに対し、豊島はかつて乳牛の飼育が盛んでミルクの島といわれたこともあったが、今はオリーブの島。そのオリーブ園が島の南へまわると現われる。東洋オリーブの経営で、小豆島よりも豊島に広い面積を持っているという。オリーブ園の下に広がる海の彼方にはぼんやりとかすむ高松のビル街が浮かんでいた。再び唐櫃に戻り、海岸から棚田を見上げると、曾我さんが耕作する3か所の棚田の区画が際立って美しく見える。よく草が刈られ世話されているためだ。

今年復田された棚田も福武財団や緊急雇用対策の職員によってよく管理されている。しかし、これら職員の雇用は3年間の期限つきで来年には終了する。当然保存会への負担が増すものと考えられるが、そのことを一切口にしない曾我さんの心のなかでは復田した棚田を守っていく覚悟ができているのである。放棄地から見事に棚田をよみがえらせた第二の静岡県松崎町石部になることを期待したい。

豊島唐櫃の棚田へのアクセス



【公共交通】宇野港・土庄港・高松港からフェリーで豊島 唐櫃港へ

内成棚田の保全活動

大分県別府市 後藤 幸彦

内成棚田の米づくりの最初のイベントは、遊休農地の野焼きから始まります。使われていない田んぼがないのが一番ですが、高齢化や農産物価格の不安定などで、年々その面積は広がるばかりです。遊休農地の枯れ草を燃やすというようなイベントをすると、何とかして農地を守らなければという気持ちが高まってきます。

このような活動を5年ほど続けていたところ、内成棚田のすぐ近く、別府市と湯布院との間にサクラスミレ、エヒメアヤメ、ハンカイソウ、ツルニンジン、モウセンゴケ、ヒトリシズカなど数々の貴重な植物が生育する「猪の瀬戸湿原」があり、その再生を目指し活動をされている団体が今年から野焼きをするということで、一緒に作業をさせていただくこととなりました。

様々な経験ができる地域である内成に滞在していただきたいということで、「ホリデーハウス御園」という簡易宿泊施設があります。この施設は別府市にある立命館アジア太平洋大学の学生さん達の協力を得て開設したもので、長期滞在を基本とした使い方で1週間を利用していただくシステムになっていますが、開設以来たくさんの方々のご利用をいただいています。日本にも棚田に長期間滞在したいというニーズがあったのを再認識しました。

利用者の中には内成で自由に滞在出来る家が欲しいと探し始めた方もいます。このよ



内成棚田の野焼き

うな方達を支援するために24年度は「田舎で暮らしたい事業」ということで新しい展開が出来ればと思っています。

温泉好きには垂涎の、泉源の種類豊富さ(11種類中10種類)、泉源数の多さ、100円から入れる市営・自治会営の温泉が魅力の別府温泉。そこから10キロほどしか離れていない内成と別府市内の町づくり団体の皆さんと一緒に、別府を訪れた観光客の方に、内成の棚田米をメインとした別府の食の豊かさといった朝食を食べていただけないかと、平成24年5月末から別府市の中心地にある北浜公園で「北浜マルシェ」というサービスを提供しようと準備中です。もちろんの中には、棚田を活かした数多くの野菜や加工品の販売をするブースも設ける予定です。今年の夏は温泉街と棚田を楽しんでいただける新しい場が提供できそうです。

- ホリデーハウス御園 <http://uchinari.info/>
- 猪の瀬戸の風 <http://homepage3.nifty.com/sanjin-inosetopsw/>
- 棚田・里山景観研究所 <http://tanada.info/>

会員のひろば



会員の声募集!



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!「ご要望、感想やご質問でもOK!」(会員の声800字まで、会員レポート400字まで、写真も添えて) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-1-116 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ⇩ hiroba@tanada.or.jp



会員の Best Shot!

会員のみなさんの
ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇨ hiroba@tanada.or.jp



散歩
東京都渋谷区 石川 公康
(石川県輪島市白米千枚田)

棚田散歩



上/夏は森に抱かれた棚田に
下/小さな社から見下ろす棚田と秦野盆地

神奈川県秦野市
名古木の棚田

(神奈川県川崎市 久野大輔)

それらから、広がる秦野盆地と、真つ白な富士が見えた。田んぼの脇にシートを広げ、おにぎりを頬張った。風は冷たいがやわらかな太陽の光はもう春の気配が感じられる。棚田を見下ろす小さな社からは、広がる秦野盆地と、真つ白な富士が見えた。

2月の良く晴れた日曜日、神奈川県秦野市の丹沢山系の麓にある名古木の棚田に出かけた。以前にも一度訪れたことがあるのでこれで二度目の訪問である。この棚田は、新宿から小田急線急行で約65分、秦野駅で下車してバスで10分ほど乗車し、そこから20分ほど歩いたところにある。昔ながらの農家と新興の住宅が入り交じる道を山の方向へ、少々勾配の急な坂道を進むと左手に棚田が見えて来た。背後には丹沢山系の山並みが連なり、自然林や竹林に囲まれた、こぢんまりとはしているが里山風情溢れる美しい棚田である。枚数にして30数枚ぐらいだろうか。実は秦野市は僕の生まれ故郷でもあるのだが、こんな棚田があるなんてつい最近まで知らなかった。

丹沢山系に抱かれた小さな棚田



鬼に訊け 宮大工 西岡常一の遺言



2011年/日本
HD/カラー/88分
配給:太秦

2012年2月4日よりユーロスぺース・シネマサンシャイン大和郡山(奈良県)にて
*祈り。のモーニングショー 他全国順次公開

公式HP <http://www.oninikike.com/>

西岡常一は、宮大工である祖父の教えを受け、「土を知る」ために農学校に入学させられる。自然は土を育み、土は木を育てる。千年生きる建物には、千年生きる檜が必要であり、その上で木のいのちを繋いでゆく技術が必要だと彼は言う。土を知ることから始まり、「法隆寺の鬼」と称せられるまでになった常一。生前の姿をとらえた貴重な映像や証言を通して、現代文明に抗いながらも「いのちを繋いでゆく」ことの尊さと、仏教建築の原点を伝える。

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



里山復権〜能登からの発信〜



編著者: 中村浩二 嘉田良平
¥1800+税
創森社
2010年10月

本書は、1999年から金沢大学の中村浩二教授を中心にスタートした「里山里海プロジェクト(自然共生型地域づくり)」に関わってきた学内外の研究者ら16人が執筆した。テーマは、「生物多様性のゆりかご」としての里山を保全するだけでなく、どう活用したらよいか、それを持続可能な未来社会へといかにつなげたらよいか、である。2011年6月に「能登の里山里海」が国連食糧農業機関(FAO)の世界農業遺産(GIAHS)に登録され、追い風も吹いている。

エコプロダクツ2011に出展

2011年12月15日～17日 報告 高桑 智雄

今回のエコプロダクツは、棚田ネットワークが全面協力している棚田米販売サイト「棚田米百選」の成川米穀さんと一緒に出展しました。

年々、エコプロダクツは大企業の出展が増え、以前なら、NPOアースにCSR目的の企業さんがまわってきたのですが、最近は無いです。そこで、今回はこちらから企業まわりをしようと、会報とパンフレットを持って、いざ出陣！どこの企業も真摯に話を聞いてくれましたが、果たして効果は如何に。



新生フィナンシャル 社員による 農作業ボランティアをコーディネート

2011年10～11月 報告 清水 一徳

新生銀行グループの新生フィナンシャル株式会社より、関西地区において社員による農作業ボランティアの参画依頼を受け、和歌山県海南市上谷と奈良県明日香村の稲刈の2地区において、農作業ボランティアの実施を支援しました。

今回、草刈りや清掃活動等を手伝って頂くことで、労力だけでなく、地元との交流促進も図られ、両地域も笑みを浮かべていました。

今後も高齢化する過疎集落での棚田保全活動において、法人企業の活動支援を応援していきたいと思えます。



明日香村稲刈の棚田

棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

会合でお会いした「農夫の会」というボランティアグループの代表と広報担当の方は二人とも女性。目標は「棚田の最上段まで耕作を復活させること。それとモンテのJ1昇格！」と明快でした。

そのほか、「背炙りの詩」というブランド米を作った中沢棚田保全会の「田んぼボーイズ・代表ボーイ」さんも、ユニークで魅力的。

地域でがんばっている人達を知ると、どこもかしこも応援したくなりまじやないだろうか。発信は大切。それと、応援の気持ちをつないで形にした。棚田トラスト、始めなくちゃ。

2月初め、「第一回山形県棚田サミット」に行ってきました。2014年秋に山形県上市市で全国棚田サミットが開かれるため、そこに向けて機運を盛り上げ、県内の棚田地域の活性化を図ろうという催しです。山形県では『やまがたの棚田20選』が選定されており、日本の棚田百選に選定されている3地域と合わせて23地区が対象となり、代表者が集まりました。

嬉しかったのは、『大蔵』棚田の復活への動きを知ったことです。秋の杭掛けの風景で有名なこの棚田は、耕作が維持出来なくなる田んぼが増えて、残っているのは最盛期の3割ほどだそうです。「あの風景が見られなくなるのか」と心配されていたのですが、昨年、サッカーJ2の（モンテディオ山形）の選手やサポーター、ボランティアが来訪して田植えや稲刈りを行い、穫れたお米を「モンテ米」として販売するという試みが始まり、活気を取り戻しつつあります。

スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局
畦野花世



栃木県茂木町

茂木プロジェクト

春を待つ岩ノ作棚田



左：ロウバイ / 右：ニホンアカガエル



昨夏の猛暑が嘘のように、この冬は全国的に寒さ厳しい日々が続いていますが、岩ノ作棚田も例外でなく、日陰の水たまりは固く凍結し、岩肌からしみ出る水は白く輝きながら、地面に張り付いています。時折、葉っぱを落とした木々の梢を揺るがす風も冷たく、澄みわたった空の青さがことさら目に染みます。とは言うものの、早春を象徴する花「ろうばい」は、既に咲きほころび、透明感のある黄色い花が春の近さを教えてくれます。2月も末になると、ニホンアカガエルの恋の歌、「キュッ、キュッ、キュッ」という美声が聞かれ始めます。

今年も例年のように、体験米づくりや棚田散策、生きもの観察会などを計画しています。田植えは、5月の連休明けの予定です。皆さま、今から予定に組み入れてどうぞご参加ください。今年も棚田でドロンコになりながら、楽しい時を過ごしましょう。

(安井 一臣)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

雪の棚田ビオトープ



冬の岐阜といえば、雪景色を思い浮かべるでしょう。白川郷の合掌造りに雪が降る風景。岐阜県はかつて美濃の国と飛騨の国に分かれていました。雪が多いのは白川郷などがある飛騨で、棚田ビオトープがある恵那市坂折棚田は美濃なので、そこまで雪は降りません。といっても、やはり中山間地ですから、雪は降るし、降ったら気温は低いのでなかなか雪が融けません。

棚田ビオトープでは、3月上旬中旬、代かきをして棚田に水を溜めます。坂折棚田では普通わざわざこの時期、水は溜めません。なぜ水を溜めるのかというと、3月の下旬ぐらいから棚田の水溜まりに産卵をするヤマアカガエルのためです。ヤマアカガエルは棚田の小さな水溜まりに産卵をしますが、棚田ビオトープではわざわざ産卵場所をつくっているのです。

坂折棚田全域でヤマアカガエルの卵塊を探す企画を棚田ビオトーププロジェクト岐阜恵那「第5回かえるの卵を探そう!」として3月24日(土)10:00から開催します。ぜひともご参加ください。

(相田 明)

静岡県松崎町

昔ながらの米づくりプロジェクト

いよいよ始動します!



この棚田を復田します

今年から始まる石部棚田での「昔ながらのお米づくり体験」の下見に、昨年12月20日に、スタッフ3名で冬まっさかりの石部棚田を訪れました。保存会の会長、高橋周蔵さんに今回復田する放棄田を案内していただき、棚田ネットワークへの多大なる期待もいただきました。今回の復田場所は、石部棚田の入口近くから正面に見渡せる位置にあり、蓑口のある昔ながらの棚田風景が、石部の顔になって欲しいとの願いがあるそうです。責任大ですね(笑)。

3月3日(土)、4日(日)に決定した第1回目の作業は、「石部棚田復田チャレンジ2012」と題して無料イベントに致しました。3畝、6枚程度のかなり規模の大きい放棄田を復田して、蓑口という藁でできた伝統的な水取り口を設置します。とにかく人手が必要なのです! 松崎町は、風光明媚、温泉もあり、海の幸山の幸が美味しい~。ぜひ、この機会に訪れてみませんか。

(高桑 智雄)

新生フィナンシャル

新生フィナンシャル株式会社は、新生銀行グループの一員として、個人向けカードローン事業や地域金融機関の信用保証提携を通じて当社ノウハウとITシステムの提供により、個人向けローン事業の拡大を支援しています。

■ 新生銀行について

株式会社新生銀行は、法人および個人のお客さまに、幅広い金融商品・サービスを提供しています。総資産は約8.9兆円(連結ベース、2011年9月末現在)、全国に店舗網を展開しています。

新生フィナンシャルは、社会貢献活動の一環として中山間地域の方々の農作業のお手伝いを通じて、かけがえのない日本の財産である「棚田」の保全活動を継続的に行ってまいります。



お問合せ先

新生フィナンシャル株式会社
総合企画室 ☎03-3525-9126 (9127)
担当：石橋・江本

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費 ○法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

棚田の応援団

わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員
維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 3,000円
学生会員 2,000円

編集部から

会報誌「棚田に吹く風」の発行回数も前号(1月号)で80回を数えました。隔月発行を長い間支えて来たのは先輩諸氏の地道な努力によるところが大きいと感じています。

最近のインターネットの普及はめざましく、活字離れも急速に進んでいます。雑誌のオンライン書店「フジサン」の調査によりますと、この一年間だけでも94種の雑誌が店頭から姿を消しているとのこと。

このような状況下にあつて棚田をめぐる情報誌も決して多くはありません。今後とも情報発信の一翼として「棚田に吹く風」を読者の皆さんと共に支えて行きたいと思っています。投稿・読後感や要望をお待ちしています。

ホームページのぞきを見て!

棚田写真館がリニューアル!地域別になって見やすくなりました。ぜひ投稿お待ちしております。



www.tanada.or.jp/gallery/

棚田に吹く風

2012年3月号 Vol.81

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565